散歩の楽しみ方

荒　井　正　行

休日における私の生活は大変忙しい．5:00 に起床し，歯磨き，朝食を取った後に机に向かって仕事を始める．2 時間程度仕事をした後，たっぷりと朝食をとる．その後，再び机に戻り仕事を再開．9:00 からランニングを開始．自宅から鶴見川沿い上流側に向けてゆっくりと走り始める．途中，ストレッチ，筋力トレーニングして，10:30 までには自宅に戻る．シャワーを浴びて，汗を流す．再び，机に戻り 1 時間以上かけてその日の朝刊を隅から隅まで読む．必要に応じて，記事を切り抜き，それをノートに張り付ける．そうこうしているうちに昼食の時間になる．昼食後，自宅の庭木の剪定，草むしりを 1 時間程度する．この作業が終了したら，ふたたび散歩に出発．散歩は，おおよそ 3 時間程度である．ここまでの消費カロリーは約 3000kcal にも達する．帰宅後，再び 2 時間程度机に戻り，仕事を再開する．仕事は研究の場合もあるが，ほとんどは原稿執筆である．さて今年のお題はこのうちの“散歩”である．

散歩コースは色々である．その一例として，自宅から玉川学園の山を越えて町田駅方面まで往復 12km のコース，若葉台までの往復 10km のコース，小田急線で一旦登戸まで移動し，そこから自宅まで徒歩で戻る 10km のコースなどなど．気分に応じて，これらのコースを変えていく．しかし，さすがに数十年間にもなると気分に応じてコースを変えても飽きてくる．散歩が退屈なものとなる．そんなわけで，大きなビニール袋を担いでゴミを拾いながら散歩し始めた．道は綺麗になり，気持ちもすっきりして，一時，これがお気に入りとなった（今も定期的に掃除している）．しかし，重いゴミ袋を担ぎなら帰宅すると，気分が重くなることもある．そのため何か，好奇心をもって散歩できないものか，と思案してみた．

そのようななかで，アプリ検索していると“古地図散歩”というものを発見した．このアプリにより自分のいる周辺の古地図が見られる．明治初期，1900 年，1930 年，1960 年（私の生まれた頃），1980 年，2000 年，2015 年のころの古地図や時代によっては上空から撮影した写真も見られる．ほかのアプリも調べて見ると江戸時代の古地図も見つかった．そこで，このアプリで自宅の周辺を調べてみることとした．私が引っ越してきた 25 年前までは自宅の周辺は山に囲まれており，畑や田んぼが広がっていることがわかった．上空写真によれば大変，素晴らしい景色が広がっていることもわかった．そこで，この古地図を利用して，散歩してみることにした．

アプリ“古地図散歩”を見ながら，自宅の近くを通る津久井道（正式名称:東京都道・神奈川県道 3 号世田谷町田線）を町田に向けて歩いてみることにした．登戸駅から出発し，津久井道の古道と現在の 3 号線がどの程度一致しているのか，景色はどのように変化したのか，などなど，想像するだけで興奮しはじめた．すぐに気が付いたことは，現在の 3 号線はほとんど古道の上を通っていたことである．ただし，道路拡張工事，地区整備のために昔から住んでいた方の家が，古地図よりも山側へ移動しているものもある．そこで，寄り道をして旧家のまわりを歩いてみる．再び津久井道へ戻り，テクテクと歩き始める．百合丘，新百合ヶ丘に近づくと，古道と現在の道がややずれるようになり始める．これは新百合ヶ丘（造成後に付けられた地名.）が森林地帯であり，約 1970 年頃にこの地が宅地造成されたために道幅も拡張されたことによる．現在，3 車線あるいは 4 車線の道幅も昔は人ひとり歩くことができる程度の道幅だったようだ．自宅近くに近づき，さらに歩く．古地図によると，途中で左側に直角に曲がり，ふたたび右側に曲がって歩いて現在の道に合流するようになっていたようである．現在は，直線状に道が作られている．というわけで古地図に従って曲がりながら歩いていく．現在でもこの道が残されているのにびっくりした．散歩途中で止まりながら，昔の景色をひとつひとつ確認していく．通常，2 時間 30 分程度で歩ける道も，古地図を見ながら歩くと 3 時間以上かかった．しかし，まったく飽きることない．興奮しながらひとりで“なるほど．昔はこんな景色だったのか..”などと独り言を言いながら歩き続ける．この経験を契機に，自宅を出発する前に，古地図であらかじめ古道を調べておき，この道がどのように変化しているの調べるようにして散歩している．最近では，鎌倉時代から使われていた旧鎌倉街道を調べ始めている．そのほとんどは残っていないが，山の中に一部昔の道があることを発見した．

こんな風にして散歩を楽しんでいる一方で，このあたりは約 50 年前までほとんどが森林，畑，田んぼだったことに感慨する．この風景は世田谷あたりまで広く広がっていた．狛江あたりには今も原風景が残っているところもあるが，ほとんどが宅地造成され，自然は残っていない．昔からそこに住んでいた名士といわれる方の家もほとんどない．その家は博物館へ行かないと見られない....

江戸時代に日本に来た宣教師が，「日本の景色は世界一すばらしい！」と感嘆したそうである．一方，今の日本の景色は醜いと思う．外国人が東京に来たら，ビルだらけでびっくりするそうである．もう古びた木造建築も存在しない．お城もない．田畑もない．ビル，工業地帯の一辺倒．昔のような風景に戻すことは不可能であるが，現在の自然をこれ以上破壊しないようにしてもらいたいとつくづく思う昨今である．（終）